
ポスター

ポスター11

看護（看護支援・医療安全・看護教育）

2018年11月24日(土) 10:00 ～ 11:00 J会場(ポスター) (2F 多目的ホール)

[3-J-2-6] わが国の看護管理者への看護情報教育に関する文献的考察

○菖蒲澤 幸子（日本赤十字秋田看護大学看護学部）

【はじめに】2001年政府が e-japan戦略を掲げてから今日まで、病院の看護師には電子カルテを用いての業務が定着し、看護管理者には、さまざまな「情報」を活用できることが求められてきた。さらに、これからの看護管理者は、地域包括ケアが推進される中で、看護職の活動の場の変化に対応できる看護情報の知識・スキルを持たなくてはならない。そこで、わが国の看護管理者への看護情報教育についての文献検討と、最新の看護管理テキストでの情報管理に関する記載内容の分類を行い、現在の課題を整理することを目的とする。【方法】対象文献は医学中央雑誌 Web版 Ver5を用い、「看護管理者」「看護情報」で103件が抽出された。検索期間を最近の10年（2007年～2018年）とし、さらに「教育」で絞り込みを行って30件、「研修」で絞り込んで8件が抽出された。会議録を除き、さらに、一人の筆者の連載での解説文献等を除いた。看護基礎教育「看護管理」用テキストの「情報管理」に関する項目内容の分類をした。【結果】対象文献の分析の枠組みは、看護情報教育を行っている場、教育の内容、看護情報能力としている内容、実際に看護管理者が扱っているデータの内容とした。教育の場は認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修だった。教育の内容は、情報倫理・個人情報保護、病院・看護情報システムだった。看護管理者が扱っているデータは、電子カルテシステム内での看護記録、看護必要度、DiNQLデータだった。2018年改訂の3冊の看護管理用テキストでの「情報管理」に関する項目は、「データと情報」「個人情報保護」が入っていた。

わが国の看護管理者への看護情報教育に関する文献的考察

菖蒲澤幸子^{*1}

^{*1} 日本赤十字秋田看護大学看護学部

Literature review about nursing information education for nurse managers

Shobuzawa Sachiko^{*1}

^{*1} Japanese Red Cross Akita College of Nursing

Abstract

For the purpose of organizing the current issues about nursing information education for nurse managers in Japan, we reviewed literatures and classified the contents listed in the table of contents related to information management in the latest textbooks on nursing management.

As the subject literature, "Igaku Chuo Zasshi" (ICHUSHI), Web version, Ver5 was used. Literatures were narrowed using both keyword groups of "Nurse manager"/"Nursing information" and "Education"/"Training" and, as a result, 17 literatures of 2007 to 2018 were chosen. The framework of analysis consists of "Place of education," "Educational context," "Contents regarded as nursing informatics competencies," "Contents of data nurse managers are actually handling." We also classified the items in the table of contents related to "information management" in three textbooks, revised in 2018, of "nursing management" for nursing basic education.

The place for education was the first level seminar of the certified nurse manager curriculum. The educational context was information ethics, protection of personal information and hospital/nursing information system. The data handled by nursing managers were nursing record in electronic clinical record system, nursing necessity and DiNQL data.

In the "information management" described in the textbooks of "nursing management" for nursing basic education, "data and information" and "protection of personal information" were included.

Keywords: nursing manager, nursing informatics competencies, education item, literature research

1. 緒言

2001 年政府が e-japan 戦略を掲げてから今日まで、病院の看護師には電子カルテを用いての業務が定着し、看護管理者には、さまざまな「情報」を活用できることが求められてきた。さらに、これからの看護管理者は、地域包括ケアが推進される中で、看護職の活動の場の変化に対応できる看護情報の知識・スキルを持たなくてはならない。

2. 目的

わが国の看護管理者への看護情報教育についての文献検討と、最新の看護管理テキストでの情報管理に関する目次と記載内容の分類を行い、現在の課題を整理することを目的とする。

3. 研究方法

3.1 文献検討

対象文献は医学中央雑誌 Web 版 Ver5 を用い、「看護管理者」「看護情報」で 103 件が抽出された。検索期間を最近の 10 年 (2007 年～2018 年) とし、2つのキーワードに加え、「教育」と「研修」のそれぞれで絞り込みを行った。「看護管理者」「看護情報」「教育」で 30 件、「看護管理者」「看護情報」「研修」で 8 件が抽出された。これらから、重複を除き、さらに、一人の筆者の連載での解説文献等を除き 17 文献を対象とした^{1)～17)}。対象文献はマトリックス方式¹⁸⁾で整理した。

その後、看護情報教育を行っている場、教育の内容、看護情報能力としている内容、実際に看護管理者が扱っているデ

ータの内容を分類した。倫理的配慮として、本研究は既存文献に基づく研究であり、引用した文献の出典を明らかにし、著者の原論文に忠実であることを努めた。

3.2 基礎看護教育用の看護管理学テキストの「情報管理」の目次と内容の分類

2018 年改訂の 3 冊の基礎看護教育用に作成されている「看護管理」テキスト^{19)～21)}での「情報管理」に関する目次や単元の項目と内容を整理した。

4. 結果

4.1 文献検討

対象文献の年次推移は 2010 年 4 件、2008～2009 年 3 件、2011～2014 年 5 件、2016～2017 年 5 件だった。調査研究が 9 件あり、調査対象別でみると、1 都道府県または複数都道府県のファーストレベル受講者を対象とした理解度等の調査が 5 件、そのうちの 2 件は、同じ調査対象者のデータを目的を変えて分析したものだった。

全国の病院の看護部長、副看護部長相当を対象とした調査は 3 件だった。看護情報学の専門教育を得た看護師に対して、病院の看護管理者はどのような実践力を期待しているのかを聞いたものでは、大学院卒看護師＝看護情報学の専門知識を得た看護師という考えで調査が進められていた。看護部長相当の看護管理者が情報の知識を持った看護師に期待することの自由記載内容として、情報システム開発時の開発業者との仲介役や、スタッフ教育、業務量の測定やデータの二次利用への期待が挙げられていた。

電子カルテシステムの導入状況、看護管理者のメディアリテラシー、看護業務と管理業務でのシステム化の現状を調査したものでは、回答者の6割が看護部長副看護部長相当であったが、システムが入っているとメディアリテラシーが高いという結果だった。全国150人の看護部長を対象とした2009年の調査では、eラーニングの知名度は高く、eラーニングでの研修を受けたことがある看護部長も多いが、施設へのeラーニングシステムの導入は少なかった。

看護情報を教授している者を対象として、アメリカの看護情報能力の内容を基に、中間看護管理者(病棟師長主任)に必要な看護情報能力の教育項目をデルファイ法で調査したものと、TIGER Competencies Wiki のBaseline Infomatics Competencies for Nurse Managersと認定看護管理者ファーストレベル「看護情報論」の単元との内容の比較をしたものがあつた。

新任看護中間管理者への半構成的面接法による質的帰納的研究からは、管理者としての役割を遂行していく中でどのような困難に【大量情報の咀嚼と浸透】という困難があつた。

病院情報システムで、日々入力されている看護ケア実施データ件数を看護業務量として、DWH データベースよりデータを集計したものがあり、自院の看護必要度データ、DiNQLデータをどのように入力し、活用しているかの事例の報告が3件、病院の電子カルテへ看護診断・看護介入・成果指標(NANDA,NIC,NOC)を組み込み使用している報告が1件あつた。

17文献のうち7文献が、わが国の看護管理者へ教育を行っている場として認定看護管理者研修ファーストレベル「看護情報論」を述べていた。ファーストレベルで講義している内容は2文献に記載があり、その内容は表1のとおりである。

表1 ファーストレベルでの教育の内容

1. 情報の概念	1. 医療の可視化と質保証の必要性
2. 情報管理のプロセス	2. 「看護必要度」開発の意義
3. 情報化社会と医療・看護	3. 「看護必要度」の課題と問題点
4. 情報の視覚化	4. 「DPC」開発の意義
5. 医療・看護へのICT活用	5. システム導入は操作をはじめとする教育が必要
6. 看護ナレッジとeラーニング	6. 電子カルテ開示に関する要件
7. コンピュータのしくみ	7. 電子カルテの用語は標準化されていることが必要
8. ネットワークのしくみ	8. 看護基礎教育における看護情報学の必要性
9. 情報倫理とセキュリティ	9. 看護情報の専門的な能力を持つ看護師の育成が必要
	10. OECDの8原則、個人情報保護法
	11. 診療情報の提供等に関するガイドライン
	12. 個人情報漏洩のリスクについて
	13. 個人情報保護体制の構築の必要性
	14. クリニカルパスについて
	15. 保健師業務のコンピュータ活用について
	16. 退院調整に看護情報システムを利用する効果

※記載内容は文献(4)10)より引用

複数の文献で看護管理者の看護情報能力としている項目は、メディアリテラシー、コンピュータスキル、情報の知識、情報のスキルだった。情報活用実践力(収集力、判断力、表現力、処理力、創造力、発信・伝達力)尺度を用いているものもあつた。

実際に看護管理者が扱っているデータの内容は表2に示した。

4.2 看護管理学テキストの「情報管理」の目次と内容の分類

2018年度改定の基礎看護教育用の3冊の看護管理テキストの目次項目を分類した。3冊ともに「情報管理(マネジメント)」という大項目があつた。A誌は、看護サービスのマネジメントという章立てで情報マネジメントとし、看護ケアのマネジメントの章立ての「看護業務の実践」という大項目、中項目「情報の活

用」があり、看護記録に関する内容が小項目になっていた。他の2誌は「情報管理」大項目が設けられていた。3誌ともに「データと情報」「個人情報保護」「診療記録、電子カルテ、病院情報システム」が入っていた。(表3)

表2 看護管理者が扱っているデータの内容

指示ワークシート、看護計画表、プロフィール、サマリー。継続教育支援内容として研修講習会の登録、看護師個人ファイル、勤務表作成、看護管理日誌、看護度の集計
看護必要度データの根拠となる記録のテンプレートによる入力、看護必要度B項目(KコードLコードは医事課で確定、C項目は病棟クラークが入力)
時間外勤務の時間数、病棟稼働率、緊急入院率、75歳以上患者割合、重症度・医療看護必要度の一般基準越え患者割合、転倒転落患者のデータ
DiNQLデータ:入力時間の短縮と院内の他のデータから自動的に収集可能となるように、電子カルテからは【患者情報】【褥瘡】【感染】のデータが、勤務管理支援システムからは【労働状況】【看護職情報】のデータ収集するしくみを作った。
NNN(NANDA NIC NOC)

※記載内容は文献 1)6)14)16)17)より引用

5. 考察

ここ10年の看護管理者への看護情報教育についての文献検討の結果、研究の対象者が「看護管理者」としていても、さまざまな職位が混在していた。すでに管理職として勤務している看護部長・師長・主任は、情報処理は日常の業務¹³⁾、看護師に対して情報教育を行う際には、出来るだけそれぞれの職位のニーズにあつた内容を教授することが重要⁵⁾、としており、スタッフナース、看護中間管理者(看護師長・主任)、看護部長副看護部長と、職位別の看護情報教育の必要がある。

また、看護管理者へ看護情報学を教授する場合は、認定看護管理者のファーストレベル研修であることが解つた。

看護協会は認定看護管理者のカリキュラム基準の改正を行い、2019年度から新カリキュラム基準を遵守することを各教育機関に求めている²²⁾。2019年以降は、ファーストレベルで「資源管理Ⅰ」という教科目で「看護実践における情報管理」、セカンドレベルでは「資源管理Ⅱ」で「看護管理における情報管理」サードレベルで「資源管理Ⅲ」で「組織的情報管理」という単元を設けている²³⁾。

今後は、認定看護管理者教育課程のファースト、セカンド、サードのそれぞれで看護情報教育が組み込まれていくことになるため、職位に合わせた教育内容の検討が急がれる。

また、看護協会の認定看護管理者教育課程の標準テキストとして看護情報を学べるもの²⁴⁾は、内容の改訂を行いながら活用されているが、さらに職位によって学ぶ内容が積みあがるような構成も必要と考える。

地域包括ケアシステムの推進の中で、訪問看護ステーション、介護施設等に就業している看護師は全体の1割以上を占めており²⁵⁾、今後ますます、これらを就業場所とする看護管理者が増加すると考える。したがって、病院診療所以外で就業している看護管理者のニーズに合った、看護情報教育を構築するために、訪問看護ステーション、介護施設等での情報管理の実態と看護管理者の看護情報教育のニーズを知る必要がある。

さらに、看護管理者として医療情報部もしくは情報担当の部署に配属されている実態もあり²⁾、これら情報担当の看護師、看護管理者の実態も明らかにする必要がある。

基礎看護教育用看護管理テキストの「情報管理」の目次項目の分類を行ったが、2018年より国家試験出題基準「看護の統合」に情報管理の内容が追加されている。2018年度のテキストの改訂には、この出題基準の改定が関連していると考えられる。看護基礎教育で看護情報を教授している教育機関も

あるが、「看護の統合(看護管理)」「情報管理」として基礎看護教育での看護情報の教授が必要となった。

今回の文献では、大学院教育での看護情報教育に関したものが1件だった。認定看護管理者教育課程以外に、看護系大学院でも看護管理者への「情報管理」に関する教育がなされていると推察された。大学院教育で、特に看護管理を専攻している教育機関で、看護情報に関する内容がどのように科目立てされているのかの文献検索が必要と考える。

新任看護中間管理者が、管理者としての役割を遂行していくうえでの困難さに【大量情報の咀嚼と浸透】⁹⁾があった。看護中間管理者が、膨大な情報の処理を困難としないためには、看護情報の知識やスキルは必須であると考え。

2016年～2017年度の文献は、診療報酬に関連する医療・看護必要度や、日本看護協会がベンチマーク事業として進めているDiNQLデータに関するものだった。データを入力するのがスタッフや病棟師長、データを分析し、看護のみならず病院経営のデータとして活用するのが看護部長副看護部長となっていることがわかった。スタッフから看護部長まで、病院情報システムのマスタの整備はどのようになされ、システムの中でデータはどのように蓄積され、データの組み合わせから、どのような情報が作られていくのかの基本的な知識を得る必要があると考える。

基礎看護教育用の2018年度改訂のテキストについて目次内容の分類では、C誌²⁰⁾には、病院情報システムやネットワークを使用していくうえでの「電子情報の適切な管理のための対策と教育」という小項目があった。コンピュータとネットワークを使用していくうえで、適切な管理をすることは、看護師として基本的なスキルとなってくると考える。

また、コンピュータスキル、情報の知識・スキルの項目や内容の、現在の国際的な標準を提示し、わが国の看護管理者への看護情報教育として、何を教えるべきかの議論も進めていくことも課題であると考え。

6. 結論

看護管理者への看護情報教育を文献的に考察し、以下のことを今後の課題とする。

- ・ 看護管理者の職位毎に教育すべき内容を整理する。
- ・ 訪問看護、介護施設等の看護管理者の看護情報教育へのニーズを明らかにする。
- ・ コンピュータスキル、情報の知識・スキルの項目や内容の、現在の国際的な標準を提示していく。

参考文献

- 高見美樹, 石垣恭子, 仲村祐子ら. 看護情報学専攻の大学院前期課程修了者に求める情報スキルの検討. JCM128paperP10102, 2008.
- 西田直子. 電子カルテシステム導入による看護管理者のメディア・リテラシーと意識. 看護診断 Vol13 No1, 2008;13-20.
- 今村利香, 峰和治, 高山忠雄. 医療機関におけるIT整備状況とeラーニングシステムを用いたDV研修に関する研究—全国に医療機関に勤務する看護部長を対象とした質問紙調査より—. 日本看護学会(看護総合)論文集. 2009;318-320.
- 真嶋由貴恵, 畠田聡, 前川泰子. ICT活用演習を導入した看護管理者むけ看護情報研修デザイン. 第11回日本医療情報学会看護学術大会論文集.2010; 26-30.
- 伊東翔輝, 青木真吾, 真嶋由貴恵ら. SECIモデルとページアンネットワークを用いた看護管理のための情報活用に関する自由記載分析. 第30回医療情報学連合大会 JCM1(Nov2010);554-557.
- 中野由美子. 総合病院にNNNを導入するリーダーとしての経験より. 看護診断 Vol15 No1.2010;68-72.
- 菫澤淳幸子. 看護管理者教育における看護情報学教育項目のデルファイ法による同定.看護管理 Vol14 No2.2010;39-48.
- 後藤芳美, 杉田聡, 三宅秀俊ら. 看護管理に有用な情報を提供するシステムの構築に関する研究—看護業務の数量化の探索—. 第12回日本医療情報学会看護学術大会論文集. 2011;58-61.
- 吉田三枝子, 関根聡子, 高橋由紀ら. 新任の中間看護管理者が認識する役割遂行上の困難と必要とする支援. 茨城県立医療大学紀要第12巻. 2012;1-10.
- 野村裕子, 酒井喜久子, 石井香奈子ら. 認定看護管理者研修における看護情報教育の評価. 第32回医療情報学連合大会 JCM1(Nov2012);370-372.
- 山内一史, 遠藤良仁. 認定看護管理者はTIGER Competencies Wiki の看護管理者向けBaseline Informatics Competenciesを満たすことができるか?. 第14回日本医療情報学会看護学術大会論文集. 2013;170-173.
- 野村優子, 酒井喜久子, 石井香奈子ら. 認定看護管理者研修ファーストレベルにおける看護情報教育の評価. 第15回日本医療情報学会看護学術大会論文集. 2014;129-130.
- 野村優子, 山内一史, 宇都由美子, 石垣恭子. 認定看護管理者研修の受講者の背景が情報活用の実践力に及ぼす影響について. 第17回日本医療情報学会看護学術大会論文集. 2016;101-103.
- 笹尾真理子. 評価しやすいシステムづくりと評価精度向上への取り組み. 看護 Vol68 No14.2016;65-72.
- 間瀬照美. 新たな事業を推進するためのチームづくり DiNQL事業への参加を通して学んだこと. 看護展望 Vol41 No2.2016;80-84.
- 濱田真由美. [組織の活性化]見える化でやる気を引き出す. 看護 Vol69 No4.2017;116-121.
- 間瀬照美. [人材育成] 効率的なデータ収集とベンチマーク結果の活用をめざした看護管理者育成と看護副部長の役割. 看護 Vol69 No4.2017;79-84.
- 坂下玲子編. 系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院, 2016. 66-67.
- 上泉和子, 小山秀夫, 笈淳夫, 鄭佳紅編. 系統看護学講座 統合分野 看護管理. 第10版. 医学書院, 2018.
- 吉田千文, 志田京子, 手島恵, 武村雪絵編. ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践①看護管理. 第4版. メディカ出版, 2018.
- 手島恵, 藤本幸三編. 看護学テキストNICE 看護管理学. 改定第2版. 南江堂, 2018.
- 認定看護管理者カリキュラム基準改正の概要, 日本看護協会, 2018. [http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2018/03/cna_curriculum2018_summary_.pdf (cited 2018-Sep-04)].
- 認定看護管理者カリキュラム基準, 日本看護協会 2018 [http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2018/03/cna_curriculum2018_main.pdf(cited 2018-Sep-04)].
- 上泉和子, 太田勝正編. 看護管理学習テキスト第2版 看護情報管理論 2018年度刷. 日本看護協会出版会, 2018.
- 看護職員の需給に関する基礎資料, 厚生労働省医政局看護課 [https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000117665.pdf (cited 2018-Sep-04)].

表3 「看護管理」テキスト目次項目の分類

	章立て	大項目	中項目	小項目
A誌 ¹⁹⁾	看護ケアのマネジメント	看護業務の 実践	情報の活用	情報の保管・記録・蓄積
				記録の役割
				情報の伝達・共有・活用
				診療記録等
				看護記録
				情報システムを用いた記録
				医療・看護情報の標準化
	看護サービスのマ ネジメント	情報のマネ ジメント	情報の種類	病院の経営情報
			情報の管理	職員情報
			守秘義務	(情報セキュリティ)
			プライバシーの保護	(個人情報保護に関する法律)
			情報開示への対応	(診療情報の提供に関する指針)
B誌 ²⁰⁾	看護管理の仕事と その管理	情報の管理	データ・情報・知識	
			看護管理に必要な情報の種類	(病院経営関連情報)(職員情報)
			看護ケアに必要な患者の医療情報	(電子カルテの活用と情報管理)
			医療情報に関する倫理的側面	(インフォームドコンセント)(守 秘義務と個人情報保護)(情報開
C誌 ²¹⁾	看護管理のスキル	情報の管理	情報の取り扱い	看護と情報
				医療情報システム
				看護管理と医療情報システム
				電子カルテの運用に求められる要件
			情報の管理	電子情報のリスク
				電子情報の適切な管理のための対策 と教育
				医療と個人情報の保護